
上海コネクション2008

きりもんじ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

上海コネクション2008

【Nコード】

N8434K

【作者名】

きりもんじ

【あらすじ】

2008年12月上海、蘇州、南京を周って義烏で仕入れ。

そのあと杭州、紹興、寧波。できたばかりの杭州大橋を

渡って上海に帰ってきました。

3度目の黄海だ

20081216

新鑑真号のほうが蘇州号よりゆったりしているようだ。

しかし蘇州号には展望室と展望風呂がある。

新鑑真は2段ベッドの8人部屋。蘇州号は雑魚寝だ。

それが又いい。色んな人と知り合いになれる。

さて今回は新鑑真。向かいのおじいさんがテレビとパソコンをずっとつけっぱなしにしている。秋葉原で色んなものを買い込んでアダプターでつけっぱなしにしているのだ。

夜の12時を過ぎてもそのまま本人はいびきをかいて眠ってしまったので、こっそりと電源を全部切って真っ暗にしてやった。

真夜中過ぎ、隣の部屋が騒がしい。酔っ払いが騒いで眠れないということ、何人かが部屋を替わったそう。とにかく瀬戸内は静か。ゆれる黄海に備えて寝とくことだ。

蘇州の林さん

20081218

林さんの荷物を担いで上海火車中央駅から蘇州へ向かう。船の中で知り合って、南京へ行くなら蘇州の家へ寄って行けということになったのだ。

あとで理由が分かった。高級マンションの5階。格安の吹き抜けの2階屋。唯一の難点が、エレベーターがないことだった。

年寄り二人で重い荷物を休み休み5階まで運んだ。

林さんの家族は北京に住んでいて、ここは別荘だそうだ。

北京、上海、神戸を行ったりきたりしている。

林さんは林氏を束ねて、各地で老人会や交流会に顔を出している。留学生や企業支援などもやっている人だ。

一段落して明日の切符の予約と郵便局をさがしてバスで繁華街まで出た。バスは若者が多く満員だったが、ちゃんと二人の老人に席を譲ってくれた。

湖の郊外は今建設ラッシュ。新幹線や上海のベッドタウンになろうとしている。

帰りに大型スーパーで食材を買う。ローラースケートで店員が走る。カートも特大だ。

林さん手製のえびの蒸し焼き。白玉汁。
えびは生焼けで、白玉はとろけてなくなっていた。
中国人より中国的な林さんだった。

南京に着いた

20081219

蘇州から鉄路で南京へ向かう。新幹線そっくりの列車だ。

1時間半で巨大な南京駅に着いた。

林さんに言われたように南京から義烏行きの夜行寝台列車を予約した。

次は地下鉄だ。2元を入れると丸いプラスチックのチップが出てきた。

「なにこれ？」

改札口をよくよく見てみると、これをペタッとやって上海と同じように

通っている。なるほど、これでいいのだ。

夫子廟平江府路68号にユースはあった。繁華街孔子廟付近の真ん中だ。

ホテル風でバストイレつきでシングル100元（1500円）。

安いなと思ったら、やはり水はなかなかお湯にならず、テレビは映らず、

空調もすぐに止まってしまった。

虐殺記念館

20081220

今日は一日虐殺記念館に行くことにした。

正式には侵華日軍大屠殺記念館という
すこぶる芸術性にとんだ建物だった。

黒と白を基調にした鎮魂の巨大空間だ。

地下がメインで万人坑まで入れると

ゆうに3時間はかかる。

荷物を3円で預けて後は無料だ。

実物骨群発掘現場がそのまま残されていて、
その時の亀が2匹、水槽に飼われている。

長寿亀と名付けられて、お賽銭のように

小銭がたくさん入れられていた。

万人坑は数層にも折り重なっていて3m以上はある。

その広さとその深さに圧倒される。

館内ではとてつもなく大きな写真が展示されていて

いずれも中国語と英語と日本語で解説されている。

福沢諭吉の思想から日本軍国主義の侵略に到る歴史が
詳細に示されている。300000人の数字が何度も
大きく標示されている。

百人斬りの二人の将校が雨花台で処刑される。

南京市民の敵討ちがなったのだ。

血の色をした石を今でも雨花台で売っている。
中華門まで歩いて地下鉄で南京駅へ。
今夜は夜行で義烏へ向かう。

紹興に着いた

20081221

2等寝台89元。23時発温州行き。翌朝7時50分に義烏に着く。

切符は車掌に預けて朝起こしてもらう。これで乗り越しはなさそう。

夜中に小銭を床にこぼして大変だった。なんととなりは女子大生。義烏まで一緒だったが皆すぐに寝静まって、おならもコケやしない。

8時半他の店はもう開いているのに周さんの店はまだ開かない。

9時を回って不安になる。9時10分周さんが現れてほっとした。

引き出しから手紙を出してみせた。こちらから送った手紙はちゃんと届いていたのだ。34袋4080本しっかりと受け取った。

賓王汽車站から紹興行きのバスに乗る。ターミネーターを見ながら2時間で紹興に着いた。小雪交じりでとても寒い。

火車站近くの雪花賓館に泊まる。80元でとても快適。

熱いシャワーを浴びて『渡る世間は鬼ばかり』の

中国語版を見てぐっすりと眠る。

寧波の女の子

20081222

粉雪交じりの北風が吹いてとても寒い。

周恩来故居から青年旅舎。魯迅故居界限を歩いた。

このエリアは景区になっていて昔の風情がそのまま残っている。
あちこち写真を撮って八字橋へ向かった。

今にも崩れそうな八方形の石橋。南宋の頃と言うから
日本では平安時代かも。思ったより小さく、

小川沿いの石造り白壁の民家で、この寒空の中川で洗濯を
している母がいた。零下数度℃だとは思うのだが。

昼から寧波に向かう。高速で1時間半。暖房がなくてとても寒い。
駅前のちよつといかがわしい旅館に泊まる。

隣が理髪店で、なぜか化粧の濃い女の子が客引きをしている。
公安の車がそれを見張っている。ナにこれ取り締まり？

旅館から繁華街まで有名な月湖を渡ってすぐだ。

この寒いのに物乞いが多い。さらに角々におばさんが
編み物をしている。「ほう？」と見ていると、

結構客がセーターやら衣類を持ち込んできたり
もって行ったりしている。なるほどリホームおばさんか？

広い歩道で女の子が自転車のサドルのようなものを手で回している。

金入れ箱がおいてあるから何かやるのだ。遠くから眺める。

誰もこの寒さの中では立ち止まりはしない。彼女はサドルの端を口にくわえたかと思うとえびぞりブリッジになってぐるぐるとサドルごと回転した。

回転が止まって一応周りを確かめはするが誰もいない。しばらくすると又回転を始めた。何故この寒さの中で？ 家族は？ ルーツは？ 色々考えながら遠くから写真を撮った。

一度通り過ぎて帰り際に小銭を全部箱に入れた。結構入っている。なんだかほっとして帰路に着いた。

日向ぼっこ？

20081223

朝食を食べに向かいのモダンな店に行く。

どこにもマグドナルドとケンタッキーがある。

その並びにあるおしゃれな店。ところが店員が
とても無愛想。マグドナルドと同じように中華を

注文するのだが、面前で店員が交代。いらっしゃいませ
もありがとうございますもなく、無愛想にメモを渡し
お金を受け取るだけ。何これ？

まずかったら絶対もうこないぞと決めて席に着いた。
ところがものすごい量でとてもおいしい。しかも安い！

安くてうまくて量があつてすぐ出てくる。

庶民にはそれで十分だ。

繁華街を歩く。大きな中華飯店の入り口。赤絨毯が敷いてあつて
そこだけ日があたつてあつたかそう。そこに浮浪者が寝そべつてい
る。

少し置いてものもらい。さらに少し置いてクリスマスのサンタの帽
子を

小さなダンボールの上に乘せて売っている。

人はたくさん通るのに誰もそのおじさんを起こす人はいない。
格差共存。ここにリムジンが着いて着飾った貴族が現れても

きつとこのままかもしれないなと思える。

夜中のノック

20081225

できたばかりの杭州大橋を渡る。

寧波から2時間半で上海に着く。

30分かけて橋を渡りきった。

黄色く濁った遠浅の海が続く。

すぐに眠たくなってきた。

上海には5つのユースがある。

キャプテン ミントン

船長。明堂。

イーゾー バイラン

易途。白蘭。

ブルーマウンテン

藍山。

白蘭路の青年旅舎に泊まる。

8人部屋のドミトリ、1泊60元（900円）。

年10泊以下だったらメンバーにならないほうが得だ。

年齢に関係なくいろんな人が泊まりに来る。

消灯して夜中にノックの音が聞こえた。ここはユースだ、誰だ？

安ホテルでは絶対に開けてはいけない。鉄則だ。

又ノックの音がする。恐る恐る明かりをつけてドアをあけた。

そこにはパンツ一枚の男の子が立っていた。

なるほどフロントは女の子ばかり。ドアはプッシュロック。

そのまま閉めてシャワーを浴びに行ったのだ。

魯迅記念館

20081226

魯迅公園の魯迅記念館に行く。記念館の文字は周恩来が書いたそうで公園の入り口にもあった。

記念館の入り口ではまず金属探知機。ペットボトルは飲んでみろといわれた。

民族魂と大きな字で書かれた布に覆われた棺。民族魂！当時西欧に虐げられていた中華民族に

目覚めよ！プライドを持て！と彼は叫び続けた。その通り！私も人間として私としての使命を果たすのだ。

魯迅公園に回るとご老人達がダンスやバドミントン、気功、太鼓踊り、筋トレ、ジョギング、こま回し、手風琴、胡弓や歌。いろいろあって面白い。

道路で水で字を書いている人が二人。字はすぐに消えるのだが、なかなかの達筆なのだ。そろそろと観客が付いていく。

そのまま北へ抜けると上海外大。留学生特訓練というのがあって多分ここで中国語の特訓をするのだ。

夕食後曹楊路駅に向かった。露店が出ていておもしろい。バイタクが串焼き屋の前をふさいでけんかしていたり、

公安のパトカーがやってきてみんなクモの子を散らすように
いなくなったり、又すぐにどことなく元通りになったり
庶民はいつでもどこでもたくましい。

内需拡大

20081227～29

白蘭ユースで上に寝ていた人と港で一緒になった。

お互いに日本人じゃないんではと思っていたみたいだ。

こういうことはよくあることであいさつが大事だと思う。

この船には上海に奥さんがいて毎月行き来している人と、

こんにゃくを上海で売ろうと言う父子と、

長旅で再就職をしようという青年と話した。

世界同時不況のさなか中国はどう切り抜けるかと言う話になって、

おじいさんが一人加わった。この人は鎮江で会社をやっている、

この不況で50%の人員削減をしたところだと言う人だ。

しかしこの半年で必ず復活できると楽観的だ。その理由は

今回の大全中で60兆円の内需拡大予算が計上されたからだと言う。

この予算は農村を中心に広く土地私有を債権化し、金融を活性化し、
内需を中国全土、農村を中心に拡大しようと言うわけだ。

公共事業に関してはもうすでに大都市周辺の大開発、高速道路等が
大掛かりに展開されているから外需が落ち込むぶんを見越して、

大規模な内需拡大に資金を振り向けると言う訳だ。国の施策なので
なんとしてでも成功させねばならない。つまりこの10年で起きた

大都市バブルを地方で起こそうと言う狙いである。必ず半年以内に

成功例があちこちで紹介されて国を挙げて最貧農民層の底上げがなされる。

世界は中国とインドの内需拡大をじっと見守っていると言う状況なのである。

これがみんなの結論であった。船内放送で船がちよつと遅れると言っている。

そのちよつとは実は6時間おくれであった。

—完—

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8434k/>

上海コネクション2008

2010年10月12日13時41分発行